

学力調査の内容別・観点別の分析や定期考査の結果も含めた生徒の実態分析

	① 内容別結果の分析	② 観点別結果の分析	③ 内容・観点のクロス分析
国語	<p>平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、A「教科の内容」B「読み解く力」の両方で都平均を上回っており、概ね良好であると言える。</p> <p>A と B の合計においても都の平均を 2.3pt 上回る結果となった。</p>	<p>B「読み解く力」において都平均を 5.2pt 上回る結果となり成果が見られた。特に「取り出す力」は 6.2pt 上回る結果となった。その他全ての観点について都平均を上回る結果となったが、関心・意欲・態度は都平均を 0.1pt 上回るにとどまっており、関心を高める授業の工夫が必要である。</p>	<p>都平均を上回る結果が見られた。力をさらに伸ばすために、国語への関心・意欲を高める工夫が必要である。また、基礎知識の定着のみならず、発展的な学習を取り入れ、理解をより深めたり、知識を広げたりすることが今後の課題である。</p>
社会	<p>本年度実施の 3 年生の練馬区学力調査の結果は、区平均よりも 6.0 点上回っている。基礎は 6.7 点上回るものの活用については、3 点上回る結果となった。</p> <p>同じく 2 年生の都学力調査の結果では平均よりも本校は 0.3 点上回っている。読み解く力については平均より 1.9 点下回った。</p>	<p>3 年生の練馬区学力調査については、すべての観点で平均を上回った。特に資料活用の技能について平均を 6.2 点、知識・理解も 6.3 点上回った。</p> <p>2 年生の都学力調査については思考・判断・表現では平均よりも 6.2 点上回るものの、一方において関心・意欲・態度は 5.1 点下回った。</p>	<p>左記学力調査から本校の社会科学学習の課題として次のことが指摘できる。例えば一問一答のような問題は、多くの生徒が正答を導けるものの、設問の文章が長く、資料などが複合的になると読み取れないケースもあった。まずは、基礎力の向上を小テストなどで定着させ、資料活用能力もつけていく必要がある。</p>
数学	<p>平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、「教科の内容」については都平均を上回っており、概ね良好であると言える。一方で、「読み解く力に関する内容」では都平均を 0.1pt 下回っており、課題がある。</p>	<p>平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、関心意欲態度は都平均を 2.2pt 下回っており、課題である。また、読み取る力や解決する力は都平均を大きく下回っており、大きな課題である。</p>	<p>平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、数学への関心や意欲に課題があるため、理解を深めようとする態度に繋がらず、思考力判断力表現力に課題が生じていると考えられる。</p>
理科	<p>「教科の内容」及び「読み解く力に関する内容」については、平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果から、正答率が東京都の平均を上回っており、おおむね良好である。</p>	<p>「解決する力」について、平成 29 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果から、課題がある。傾向として、習得した知識を活用する問題の正答率が低い。</p>	<p>時間経過に伴って学習した内容があいまいになってしまうことで活用に至らない。また、知識を活用する機会（授業）が少ないことが原因として考えられる。</p>
英語	<p>全ての領域や観点について目標値を上回っているが、校内正答率が目標値に対し、-5 ポイント未満の項目が「書くこと」、「読むこと」の領域で、それぞれ 2カ所あった。</p> <p>この項目における問題内容は、「語彙の知識・理解」、「場面に応じて書く英作文」、「さまざまな英文の読み取り」、「長文の読み取り」である。</p>	<p>全ての観点で目標値を上回り、良好である。「関心・意欲態度」、「理解」、「知識・理解」については、7割を超える正答率であるが、「表現」については、やや低い（6割を下回る）。</p>	<p>定期考査の結果を見ても、「読み取り」や「書くこと」についての正答率は低めである。これらの項目については、苦手意識がある生徒が多いため、スモールステップを組んで苦手意識をなくしていくことが大切である。また、授業でも帯活動や、単元の最後に機会を設けることで力を育成していく必要がある。</p>